

【様式】

平成30年度 学校マネジメントシート

学校名 ( 四日市西高等学校 )

1 目指す姿

(1) 目指す学校像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自主・自律をモットーに、地域から信頼される活力ある進学校を目指します。</li> </ul>	
(2)	育みたい 児童生徒像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら学ぶ喜び、わかる楽しさを実感できる生徒。</li> <li>・生徒一人ひとりの持つ力を伸ばし、それぞれの目指す進路を実現できる生徒。</li> </ul>
	ありたい 教職員像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育の専門集団として力を高め、協働して活力ある教育活動を創造できる教職員。</li> <li>・「信頼」を軸に、生徒、保護者はじめ全ての関係者との絆を深め、安全で安心して学べる教育環境を創造できる教職員。</li> </ul>

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒は学習指導などを通して、粘り強く進路実現をしたいと望んでいます。しかしやや受動的傾向があり、自分から積極的な行動に移せない面がみられます。</li> <li>・保護者は、様々な情報提供を受けて、子どもの成長を実感し、本人が望む進路選択をさせたいと望んでいます。</li> <li>・地域からは地元の中学生在が入学したいと思える、頼れる学校であってほしいと期待されています。</li> </ul>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の保幼小中からは、模範となる高校生としての行動を期待されています。大学をはじめとする上級学校へ円滑に接続できる確かな学力や生きる力をつける指導を継続的に行い、生徒が希望する自己実現が果たせるよう期待されています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の高校として、本校の教育活動に理解・支援をしていただくとともに、忌憚のない意見や提言をしていただきたい。</li> <li>・小中高の一層の連携を深め、地域全体で生徒を育む取組を一緒に進めていただきたい。</li> </ul>
(3) 前年度の学校関係者評価等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導や進路指導、生徒指導においては、教職員が熱心に取り組み、生徒達もそれを受けて成果を出していることで評価できる。取組の継続と内容の更なる充実を図っていく必要がある。また、多様な指導の中で教職員と生徒との温度差が生じないよう努力してもらっている。</li> <li>・将来の可能性を拡げるといった観点から、進学指導も可能な限り進めてもらいたい。</li> <li>・目前に迫っている高大接続改革への対策をさらに進めていただきたい。</li> <li>・四西手帳の活用について、時間の考えや自身の振り返り、評価等の観点から1つのツールとして、生徒の意見を吸い上げながら改善を進めているところが評価でき、更なる活用に期待ができる。</li> <li>・学校行事等、生徒達は意欲を持って活動してもらっている。生徒の期待度や満足度も高く学校の活力に繋がっている。生徒の更なる参画と活躍に期待したい。</li> <li>・職員の健康管理については、職員の努力により総勤務時間の縮減が進んではいるが、外部の期待に応えようとする熱意もあり、なかなか難しいのが現状であることは承知できるが、工夫できるところで対応をして欲しい。</li> <li>・積極的な意見ばかりに耳を傾けるのではなく、それ以外の意見にも注意深く耳を傾ける必要がある。</li> </ul>	
(4) 現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校は創立43年目の普通科高校で、15,475人の卒業生は地元をはじめ全国各地で活躍している。平成7年度に比較文化・歴史コース、続いて平成15年度には数理情報コースを新設し、普通科の中から、さらに学びの視野を広げ、難関大学への進学という自己実現を図りたいとする要望に応えることとした。平成25年度入学者選抜から、前期選抜でコース定員の25%、後期選抜で残り75%を両コースのくくり募集としている。</li> <li>・今年度、近隣3中学校(桜・菰野・三滝)から入学者の割合は、約25%であり、地元地域から本校の教育活動が一定の評価と信頼を得ていると判断できる一方、学力幅が広い生徒の個々の状況に対して各々が満足いく高校生活や進路の決定を実現させていくことが引き続きの課題である。</li> </ul>

	学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校は、900人近い生徒が在籍する高校として、安全で安心して学べる教育環境づくりに努めています。</li> <li>・地域貢献の一環として、学校体育施設開放事業を実施し、地域住民をはじめ広く県民に開放しています。さらに大規模地震等災害に備え、四日市市の指定避難所として地域住民の防災避難訓練等を受け入れています。</li> <li>・近年、教職員の総勤務時間の縮減が課題となっていることから教職員の健康管理に留意し継続的に様々な取組を行います。</li> </ul>
--	-------	---

### 3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習指導 <ul style="list-style-type: none"> <li>① 質の高い授業の創造に努め、生徒が自ら学ぶ喜び、わかる楽しさを実感できるよう授業の充実を図ります。</li> <li>② 教科マネジメントを確立することにより、学びの仕組みを十分に機能させ、基礎学力の定着と自ら設定した進路希望を実現するための、確かな学力の定着を図ります。</li> </ul> </li> <li>○生徒・生活指導 <ul style="list-style-type: none"> <li>① 生徒の自己指導能力向上を図ります。</li> <li>② 高い規範意識と公共の場での倫理観を確立させます。</li> <li>③ 学校行事・課外活動を通して活力のある西校生の育成を支援します。</li> </ul> </li> <li>○進路指導 <ul style="list-style-type: none"> <li>① 教職員は生徒の進路希望の実現に向けて、面談の力を高める努力をします。</li> <li>② 教職員は生徒の学習活動を重視し、希望実現に必要な学力の向上・定着のための支援を行います。</li> <li>③ 教職員は進路指導にかかわる各種データや情報を整備し活用できるようにします。</li> </ul> </li> <li>○保健管理 <ul style="list-style-type: none"> <li>① 生徒の健康状態や健康課題を適切に把握し、生徒が自らの健康課題に取り組めるような機会を設けるとともに、生徒が安心して学ぶことのできる安全で適切な学校環境を確保します。</li> <li>② 関係職員との連携をより充実させ、同じ見通しを持って生徒を支援します。</li> </ul> </li> </ul>
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校運営全般 <ul style="list-style-type: none"> <li>① 高大接続改革等の教育改革に対応しうる学習の仕組みや授業の在り方について、本校独自のシステム構築に向けて検討します。</li> <li>② 教育活動全般にわたり効果的なマネジメントに努め、その結果をもとに学校関係者評価活動に取り組むことで、学校マネジメントの質を高め、教育活動の向上に努めます。</li> <li>③ 教職員が対話を通してお互いの関係づくりに努め、支え協力し合うことを通して組織能力を高め、やり甲斐を持って教育活動に邁進できる満足度の高い学校づくりをします。</li> <li>④ 教職員や生徒の日常的な人権意識の向上を目指します。 人権教育推進計画を不断に見直し、PTA共催人権講演会を行い、「命の尊重と人権意識の向上」を目指します。 人権教育推進計画に基づき、人権LHRを公開で行い、人権意識の向上、問題の共有化、他者の尊重に重点を置き、個別の人権問題について実践を深めます。</li> <li>⑤ 年休取得の促進や定時退校日の遵守などを定着させ、教職員の総勤務時間の縮減に努め、健康管理と健康維持の取組を行います。</li> </ul> </li> </ul>

### 4 本年度の行動計画と評価

#### (1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など  
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
----	---------	----	----

<p>1 学習指導</p>	<p>(1) 週課題の内容・評価・事後指導等について検討し、教科・学年と連携して計画的に実施します。</p> <p>① 教科、学年と連携し、英語・数学・国語について計画的に実施します。</p> <p>② 課題提出率90%以上を維持しつつ、学力の向上につながるよう、内容、評価、事後指導等について検討を深めます。</p> <p>(2) 目標を明確に示す授業の在り方について研究し、授業の質を高める取組を行います。</p> <p>(3) 生徒が最も適切な科目選択ができるように、指導方針や指導方法について教科、学年団、進路指導部が連携して継続的に検討します。</p> <p>① シラバスとそのダイジェスト版を整備し、適切な時期に活用配布します。</p> <p>(4) 教科会議において授業内容や進度、考査等を適切に管理するとともに、学習指導における諸問題について検討し、対策を立案します。</p> <p>① 教科会議を月1回以上開催し、その機能を高めます。</p> <p>(5) 生徒一人ひとりの学習状況を把握し、時期を逸することなく「課題・補習・面談」を実施するよう努めます。</p> <p>① 生徒の「学習実態調査」を定期考査毎に実施します。</p> <p>② 必要に応じ日常的に生徒との面談を行います。</p>	<p>・週課題は、教科・学年と連携し、英・数・国について学期ごと各教科10回程度実施できた。</p> <p>・課題提出率は、90%以上（2学期末時点 92.3% 昨年比 0.9%上昇）を維持できた。</p> <p>・「本時の目標は明確である」は 83.4 ポイント、一方、「振り返る時間が取られている」は 78.3 ポイント。目標に対して振り返る授業の在り方を研究することが課題である。</p> <p>・文理選択説明会でシラバスのダイジェストを配布し、活用した。また、アンケートで、93%の生徒が「自分の進路希望や適性に合った文理選択・系列選択ができたと思う」と回答した。</p> <p>・概ね月1回の割合で行い、必要に応じ科目担当者同士で授業運営等の対話に努めている。</p> <p>・昨年度までの考査期間中に加え、ゴールデンウィーク中と文化祭後の考査期間外にも調査した。</p> <p>・アンケートで 88%が「進路について親身に相談に乗っ</p>
---------------	--	--

<p>2 生徒指導</p>	<p>③ 必要に応じ適切に学習課題や補講を設定します。</p> <p>(1) 生徒が自分で判断して実行し責任をとることを指導の中で経験させていきます。</p> <p>① 生徒に自己存在感を持たせるために、一人ひとりに丁寧に対応します。また、教員間での情報共有を密にします。</p> <p>② 教員と生徒の共感的な人間関係づくりに努めます。全校集会・学年集会など様々な場面で、具体的且つ分かりやすく生徒に語りかけ、考えさせる指導を行います。</p> <p>(2) 規範意識やマナー向上の指導を通して、その意味や社会の一員としての在り方についての自覚を促します。</p> <p>① 登校遅刻・授業遅刻防止の取組により、生徒の「時間を守る」意識を更に高めます。</p> <p>② 定例の頭髪・服装指導と併せて「服装指導の日」を設定し、日常的に指導を行います。特別な指導や支援が必要な生徒への対応について理解を深め、指導力を高めます。</p> <p>③ 登下校時の危険個所に立ち、全教員で登下校指導を行います。</p> <p>④ 生徒の登下校時のマナーや交通法規の順守について意識を高める取組を実施します。また、地域に支えられていることの自覚を促します。</p> <p>⑤ 各種安全教育講習を実施します。</p> <p>⑥ 環境美化に対する意識を高める機会を設定し、快適に学べる環境を維持します。日常の清掃活動の徹底と、学校環境デー、地域クリーン活動、奉仕活動を設定します。</p>	<p>てくれる」と回答。</p> <p>・各教科において、1・2学期成績不振者に補講や課題等を設定し対応できた。</p> <p>・教員からの挨拶や声掛けを行い、信頼関係の構築に努めています。また、生徒情報を関係分掌と学年団で常に情報共有できました。</p> <p>・集会などの機会に生徒自身が考え、判断させるような言葉がけに努めた。</p> <p>・生徒会役員が1学期末と2学期末に、有志(3人)が11月に挨拶運動を実施した。94%の生徒が欠席・遅刻をしない生活習慣が身につけていると回答。</p> <p>・各学年団と協力、本校生徒としてふさわしい頭髪・服装指導を定期的実施、継続的に指導が必要な生徒には粘り強く指導できた。</p> <p>・今年度も毎朝、教員が登校指導を実施できた。</p> <p>・アンケートでは98%の生徒が交通ルールを遵守していると回答。しかし自転車による事故が○件報告された。</p> <p>・携帯マナー・薬物乱用防止・交通安全の各種講習を実施し、自己防衛能力の向上に努めた。</p> <p>・ゴミの分別や校外から持ち込んだゴミの持ち帰り指導をしている。学校環境デーでの地域クリーン活動はで</p>
---------------	---	--

<p>3 特別活動等</p>	<p>(1) 生徒会活動を活性化させ、学校行事を生徒主体で取り組めるよう継続して指導します</p> <p>① 執行部活動の在り方について検討を加え、行事の準備が円滑に進む態勢を作ります。</p> <p>(2) 信頼できる人間関係の構築を軸とする質の高いクラブ活動に継続して取り組みます。</p> <p>① クラブ活動掲示板の活用を促進し、選択のミスマッチや情報の滞留を防ぎます。</p>	<p>きていない。</p> <p>・数々の行事や活動に対して生徒会が主体となって、取り組む様子が見られた。</p> <p>・アンケートより学校行事に対する満足度92%だった。</p> <p>・しかしさらなる学校行事の充実を望む生徒が約半数。</p> <p>・掲示板の活用は十分ではなかったが、アンケート結果では部活動への頑張り度92%であった。</p>	
<p>4 進路指導</p>	<p>(1) 進路に関する知識や情報を収集・理解し、面談等を通じて進路実現への道筋を用意します。</p> <p>① 生徒との面談の機会を増やし生徒理解を深めます。</p> <p>② クラス担任を軸に、教科担任、クラブ顧問、生徒指導、教育相談等関係者の情報交換の機会を増やし、密に連携します。</p> <p>(2) 自学自習の精度を高める授業・学習を目指すとともに、学習支援活動を行い、進路実現を図ります。</p> <p>① 進路ガイダンス、進路講話の質を高め、生徒の進路意識の向上につなげます。</p> <p>② 進路情報を効果的に伝える方策を検討し、保護者が子供と一緒に考え、適切に支援や判断ができるよう取り組みます。</p> <p>③ 進路指導に対する満足度90%以上をめざします。</p> <p>(3) 進路に関する各種データや情報を活用しやすいように情報発信の機会を図ります。</p>	<p>・面談週間以外にも必要に応じた面談を実施した。</p> <p>・生指や教育相談で支援が必要な生徒に対して学年を中心に教科や部活動担当とも情報交換し適切な対応に努めた。</p> <p>・各学年とも毎学期、進路指導講話を行い意識向上に努めた。</p> <p>・9月に1・2学年ともに、文理選択や科目登録、進路選択を考える機会を設けた。</p> <p>92.7%の1・2年生が進路希望や適性にあった文理・系列選択ができたと回答。</p> <p>・何度も必要に応じて生徒面談を繰り返し、進路指導に対する満足度96.1%を達成。(3学年対象)</p>	

	<p>① 教科会は、模擬試験や考査の結果について検証し、それをもとに指導計画を立て、取り組むことで指導力の向上を図ります。</p> <p>② 進路指導部は、模擬試験や基礎学力テストの分析会を企画することで、教員がそれぞれ関係する担当・学年毎の弱み、強みの把握と今後の指導改善が行えるように支援します。</p> <p>③ 生徒の入学時から卒業までの成績推移等、個別データを関係教員間で共有できる仕組みを進路指導部が進路検討会などを通じて構築し、担任、教科担任、部活動顧問等それぞれの関わりのなかで生徒の第一希望の実現を図ります。</p>	<p>・教科により異なるところがあるが、指導分野・指導法の弱点の確認や受験向け課外の指導内容の精査に活用できている。</p> <p>・模擬試験前には事前学習や過去問題の配布、模擬試験後には事後の振り返り学習などを徹底して頂く機会が増えた。</p> <p>・各学年の進路検討会、文理選択、科目登録検討会を行い個々の生徒の進路実現に向けた情報共有を行った。また教職員向けに外部講師からの入試改革の概要講演を行い情報の共有に努めた。</p>
5 人権教育	<p>(1) 教職員は「人権教育はすべての教育活動の前提である」という認識に立って、すべての教科・科目において、授業を実施します。</p> <p>(2) いじめ防止対策基本方針を踏まえ、日常的に生徒の様子に気を配ります。</p> <p>(3) P T A 共催人権講演会を行い、自他共の生命の大切さ、尊さについて考える</p> <p>(4) 1 学期、3 学期の 2 度の人権 L H R を通し、様々な問題を自分のこととして考え、他者に共感し、自他共の尊重と問題の共有化、人権意識の向上を目指す</p>	<p>・各教科及び学校教育全体で「人権意識の向上」を目指して関係教材及び機会を通して啓発を行っている。</p> <p>・各学期にいじめのアンケートを実施し、いじめの兆候を見逃さないよう心がけている。</p> <p>・「命の尊重と人権意識の向上」に係わるテーマについて交通事故遺族の想いを伝えた。しかし命の尊さと人権を重ねあわす事が難しい生徒も見られたことは課題。</p> <p>・各学年の感想も概ね、自分を見つめ直し、新たな気づきがあるものが多かったが、中には他者を思いやる心や学習意欲に欠ける感想も見かけられた。</p>
6 保健管理	<p>(1) 生徒の心身の健康状態の変化や問題点を早期発見するために、全職員において日常的な健康観察の充実を図り、適切な対応ができる体制をつくります。</p>	<p>・今年度も保健調査や健康診断、個別の健康相談から健康状態を把握し、学校行事や日常生活における配慮</p>

	<p>(2) 校内の安全点検を実施し改善していくことで、危機発生を未然に防ぎ、適切な学校環境衛生を確保します。(年2回以上)</p> <p>(3) 会議・研修会を利用し、教職員の保健・教育相談分野への理解向上を図ります。(年1回以上)</p>	<p>を教職員で共有するとともに、対応を検討することができた。</p> <p>・安全点検を職員全員で年2回実施、安全確保のため対応を進めた。</p> <p>・生徒保健委員会活動として月1回ウォータークーラーの水質検査や洗面所設置の手洗い石けんの点検などを実施した。</p> <p>・救命救急講習をロードレース大会に向けて職員のみで実施できた。</p>	
--	---	---	--

改善課題

- ・教員は毎時間の授業目標を明確に示し、生徒が授業内容に対して振り返る時間を設け、理解の定着を図る授業の在り方をより一層研究していく。
- ・生徒に日々の学習記録だけでなく、自身のポートフォリオとしての「四西手帳」活用を一層促す働きかけを行う。
- ・1・2年生の段階から進路指導部が各学年団と連携をして、生徒の進路探究につながる支援の在り方を模索していく。

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など  
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

項目	取組内容・指標	結果	備考
1 組織運営	<p>(1) 業務遂行に必要な情報を適切に収集・提供し、各部会、委員会、教科会で活用することで、課題解決について具体策を構築します。</p> <p>(2) 本校独自のキャリア教育やその指導の在り方を中心として、教育活動の改善や新規事業の提案、指導法について研究します。</p> <p>① 新学習指導要領に係る「総合的な探究の時間」の年間指導計画とその指導案について検討します。</p>	<p>・学習指導要領の改定に合わせて教務内規の見直しを検討している。</p> <p>・研究開発委員会を開催し四西手帳の活用から進路探究の方策を模索し、検討を行った。</p>	
2 業務改善	<p>(1) 学校関係者評価委員会の協議を受けて業務改善に向かう組織風土づくりに取り組みます。</p> <p>(2) 日常の職務・研修を通して、教職員の能力の向上を図ります。</p>	<p>・マネジメントシートを職員会議で提示し業務改善を図るよう周知を行ったが。</p> <p>・日常の業務が多忙で集合研修は1回に留まりました。</p>	

<p>3 情報提供</p>	<p>(3) 小さなグループによる相談や意見交換など課題解決に向けた対話が日常的に行われる雰囲気づくりに努めます。</p> <p>(4) 面談・課外・クラブ活動など生徒と向き合う時間の確保に努めます。</p> <p>(1) 本校教育活動を生徒、保護者、地域社会へ効果的な情報発信に努めます。</p> <p>(2) 全ての関係者との関係づくりに努め、地域とともに育つ学校づくりを進めます。</p> <p>(3) 必要に応じ保護者、PTA、同窓会と密に連携します。</p> <p>① 情報の伝え方を検討し、学校行事への参観や参加の呼びかけを強めます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どの分掌・学年においても主任を中心に対話が行われ協働ができています。</li> <li>・職員会議などの時間短縮に努めていますが目立った改善にまでは至っていません。</li> <li>・桜花通信を年2回、西高通信毎月発行し、保護者や地域への情報発信を行った。</li> <li>・ホームページの随時更新。</li> <li>・地区人権や地区文化祭に参加、地域の高校として歩み続けています。</li> <li>・安心・安全メールや生徒を通じて案内文を配布したりして学校に足を運んでもらう取組をしました。</li> </ul>	
<p>4 教職員の健康管理</p>	<p>(1) 教職員は日常的に健康管理に努めるとともに業務改善に向け行動します。</p> <p>① 一人ひとりが休暇取得日数を昨年度実績の維持に努めます。</p> <p>② 毎月最終金曜日を定時退校日とし、一人ひとりが定時退校に努めます。</p> <p>③ それぞれのクラブにおいて、部活動休養日を週1日設け、休養に努めます。</p> <p>(2) 過重労働対策報告をもとに、産業医面談を設定し業務改善に努めます。</p> <p>(3) 全体として総勤務時間の縮減に向け継続して取り組みます。</p> <p>① 会議時間60分以内の会議数を全会議の85%以上となるように努めます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度と比較し、休暇取得(年休・特休・病休)が増えた職員の割合67.4%。(31/46)</li> <li>・定時退校した職員の割合69.7%で昨年度より10%低くなった。</li> <li>・休養日を設定できた部活動の割合94.5%</li> <li>・産業医面談の勧奨に努めたが、業務改善にまではつながっていません。</li> <li>・内容が多い会議もあり、1時間内に終了した会議</li> </ul>	



	<p>② 職場全体における時間外勤務平均時間数が前年比で－1時間となるように努めます。</p> <p>③ 当月時間外労働が80時間を超える職員の延べ人数前年比－20%を目指します。</p>	<p>の割合77%でした。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員への働きかけを行っているものの達成できませんでした。</li> <li>・一部の職員に業務量が多い状態で達成できていない。</li> </ul>	
--	--	--	--

### 改善課題

- ・限られた時間の中でいかにして進路に係る成果を維持していくかという思考を持って、働き方改革に取り組む必要がある。
- ・職員数減少にかかわらず、できる限り業務量を維持するため知恵を出し合い工夫をする必要がある。
- ・週休日のいずれかを部活動休養日として定着させ、全ての教員・生徒が休息をとれるような活動計画を策定する必要がある。

## 5 学校関係者評価

<p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定量的評価の年度変容がわかるグラフ資料を明示されると理解しやすいので工夫を期待する。</li> <li>・次年度の取組と平行して中長期的な重点目標に目を向け2年後・3年後の具体的手立ても明記し、先を見通した計画とする。</li> <li>・教員の意識統一を図り、ベクトルをあわせることと成果を個人ではなくグループで検証する。</li> <li>・週課題の実態調査として提出率以外の指標についても検討し、生徒の実態把握に努められたい。</li> </ul>
----------------------------	---

## 6 次年度に向けた改善策

<p>教育活動についての改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業交流の仕方を改善し、授業の参観を促し、より質の高い授業の創造に努める。また、授業アンケートの仕方も改善し、授業に対する生徒自身の自己評価と教員の振り返りを促す。</li> <li>・高大接続改革及び進路に関する知識や情報を収集・理解し、生徒への面談を通じて進路実現の道筋を示せるよう整理、対応できるようにする。</li> <li>・通学マナー向上とスマートフォンの適切な取り扱いを身につけさせ、高い規範意識と公共の場での倫理観を確立し、交通事故やSNSでのトラブル未然防止に努める。</li> </ul>
<p>学校運営についての改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分掌や学年での業務記録等を次年度の担当に引継ぐことで各業務の効率化を図り勤務時間縮減に努める。</li> <li>・昨年度に引き続き、クラス減に伴う校舎施設の効果的利用及び施設設備の老朽化対応を適切に行う。</li> </ul>